



KIN-BALL®

NEWS LETTER

「共遊」「主体」「創造」を構築するキンボール

ごあいさつ

日本キンボール連盟会長 青木 高



日本連盟が設立されて6年目を迎えるとして、この間当会では750回を超える講習会やセミナーを各地で開催し、6万人近い方にキンボールを指導してきました。同時に19の都道府県支部やその他の地域のクラブとのネットワークも構築し、21世紀の新しいスポーツムーブメントとして順調に推移して参りました。このことをまずもって愛好者、関係者の皆様にご報告し、日頃のご指導、ご支援をあらためて心より感謝申し上げます。

キンボールは、若者だけのチャンピオンスポーツでは決して

ありません。むしろ少子高齢化社会の今日、世代を超えた希少なコミュニティスポーツとして、子どもから70歳を超える高齢者までもがともに一つの大きなボールを操り、ゲームを多彩に楽しむことができる生涯スポーツです。「共に生きることを喜び、生きる力をつける」を体感できるスポーツ・キンボールはいつも参加者全員の協力なくしては成り立ちません。もし、皆様の身近にまだ本格的な導入を躊躇されている地域やクラブがございましたら、キンボール特有のゲーム手法の紹介と同時に私共のこの「考え」も是非お伝え頂きますようお願い致します。名実ともに「オムニキン」(全ての人のためのスポーツ)の実現化を図りたいと思います。

2004年日本キンボール連盟主催の講習会

連盟主催の講習会も今年で3年目を迎えます。昨年に続き本年も第8回、10回、11回の講習会は笹川スポーツ財団SSFスポーツエイド事業の助成を受けて行われます。キンボール初体験の方からリーダーやマスターの指導者資格を取りたい方までどなたでも参加できる講習会です。講習会終了後には知らない人同士チームを組んでの交流大会も実施します。

また、本年初の試みとして、第8回と第12回の講習会ではキンボールの概要や普及状況、その魅力と効用などについての講義があります。第8回は前山直常任理事、第12回は高見彰常任理事が担当します。

この講習会を通じて多くのリーダーやマスターが誕生し、プレーヤー同士の交流も頻繁に行われるようになりました。開催県以外の方も参加できますので、是非ご参加下さい。参加希望者は本部事務局にご連絡下さい。申込用紙をお送りします。

《募集要項》

- 【名称】キンボール体験会および普及指導者講習会兼交流大会
- 【対象】小学生以上
- 【種別】

- A体験会：キンボールを体験したい方
- Bリーダー講習会：指導者資格のリーダー認定を受けたい方
- Cマスター講習会：指導者資格のマスター認定を受けたい方
- Dマスターフォローアップ講習会

：マスターで、技術向上を目指す方。

※マスター講習会はリーダーの資格をお持ちの方のみ。また、マスターフォローアップ講習会はマスターの資格をお持ちの方のみ受講可能。

※参加人数により講習会種別を統合させていただきます。予めご了承下さい。

【参加料】会員/小学生：無料 中学生以上：500円
一般/小学生：100円 中学生以上：1,000円
(すべて保険料込み)

※申込時点で会員資格をお持ちでない方は一般参加料になります。
※希望者は指導者資格(リーダー、マスター)も取得可能。この場合別途受験料・登録料が必要です。

■第8回
日時 2004年5月29日(土) 9:30受付
場所 国立霞ヶ丘競技場体育館
東京都新宿区霞ヶ丘町10-2 TEL.03-3403-1151

- 第9回
日時 2004年6月13日(日) 9:00受付
場所 福井運動公園体育館第一競技場
福井県福井市福町3-20 TEL.0776-36-1542
※第17回全国スポーツ・レクリエーション祭協賛事業
- 第10回
日時 2004年6月27日(日) 9:00受付
場所 東根市民体育館
山形県東根市乙1119-1 TEL.0237-42-2311
- 第11回
日時 2004年7月17日(土) 9:00受付
場所 福岡市立中央体育館
福岡県福岡市中央区赤坂2-5-5 TEL.092-741-0301
- 第12回
日時 2004年8月8日(日) 9:30受付
場所 上尾市運動公園体育館
埼玉県上尾市愛宕3-28-30 TEL.048-771-4245
※彩の国まごころ国体公開競技スポーツ芸術協賛事業

ジャパンオープン2004 in 大阪

日本キンボール連盟が主催する最大規模の全国大会「キンボールジャパンオープン」も今年で5回目を迎えます。第1回、2回を滋賀県、3回を三重県、4回を東京都で開催し、5回目は大阪市にある中央体育館で10月30日(土)、31日(日)に開催します。今年は下記の部門を検討しています。

- (1) ジュニアの部(小学生)
- (2) フレンドリーの部・一般
- (3) フレンドリーの部・ふれあい※
- (4) チャンピオンの部・男子
- (5) チャンピオンの部・女子
- (6) チャンピオンの部・混合

※子どもと大人でチームを組む部門。
募集要項は7月初旬に出来上がる予定です。

主催 日本キンボール連盟
主管 大阪府キンボール連盟
日時 10月30日(土)、31日(日)
会場 大阪市中央体育館(両日とも)



第4回ジャパンオープンにて

2003年に山口大学教育学部附属山口中学校の田中輝久先生がキンボールを体育の授業の「体づくり運動」の「体ほぐしの運動」の領域で行いました。先生とキンボールの出会いとは3年前で、スポーツとしての可能性を秘めたこのスポーツに魅力を感じ、いつか体育の授業で試したいと思い続け、昨年ついに実現しました。

2003年11月28日には山口中学校が毎年行っている研究大会に併せて授業計画を立て、多くの学校に紹介し、参加した先生方からはキンボールの可能性について様々な意見が飛び交いました。下記は第52回中学校教育研究発表大会での発表資料の一部抜粋です。普及活動や指導方法に役立てて下さい。

ともに「こころ」と「からだ」をひらく授業の創造
キンボール（体ほぐしの運動）

■1時間…リードアップゲーム

リードアップでは最初思うようにボールを扱えず苦労していたが、1つのボールをみんなで協力して扱う中で、自然に声をかけあつたり、励ましあつたりと、とても温かい時間が過ぎていった。

■1時間…ルールを理解し、ゲーム内容を把握

モデルゲームを行い、ルールを確認しながらプレーする。最初は動きが緩慢だったが、次第にコートの中を走り回るようになった。ただ、ボールの扱い方に慣れていないため、一つ一つのプレーに時間がかかった。基本動作は安全面からも練習が必要だと分かった。

■1時間…キンボールバレーで、基本動作を練習

各コートに1チーム4名、2チームずつ入り、4チームで対戦する。相手コートに返球する場合、オムニキン+レシーブチームの色をコール。ミスや反則があれば他の3チームに得点が入る。時間が経つにつれて失敗も少なくなりラリーが続くようになった。生徒からはゲームに関する意見やアイデアが出るようになり、次回は普通のバレーボールを行うことになった。

■1時間…キンボールバレーが変わった

各コート1チーム5名、2チームの対戦で、4人でボールを支え、1人がヒットする方法で行った。返球回数は5回以内で

行い、ミスしたチームがヒットを行う。ボールが大きく、滞空時間が長いためラリーが続くが、次第に人が少ない場所や遠くへ返球し、ミスを誘うような攻撃が見られるようになった。前回よりも盛り上がり、またやりたいという声があがった。

■2時間…キンボールで、集団で運動する楽しさを味わう

最初はゲーム展開が遅く、レシーブ側が守備位置に戻ってしまっているため、なかなか得点が入らなかったが、次第に要領を得て、すばやく空いているスペースにヒットできるようになり、得点していった。しかし、ゲーム展開が速くなるとコールミスやヒット時に全員がボールに触れていないなどの反則も増えていった。こうして笑いあり、スーパープレーありとコートの中は楽しい雰囲気にも包まれた。また、普段は見られない友達の様子に驚いたり、感動したりと色々な発見があった。

生徒の感想（抜粋）

・キンボールはみんなが楽しめるよいスポーツだと思います。バレーやバスケットは得意な人が2人くらいいれば勝てるけどそんなのは嬉しくありません。キンボールはプレーする全員がボールに触れないといけないので、全員で一生懸命プレーできます。また、キンボールは大きいので1人ではなかなかとることができません。それをチーム全員でとった時友情が深まると思います。オムニキン(みんなが楽しめるスポーツ)はその通りだなと思いました。

・キンボールのコツをつかむにつれて、チームとの深まりも一層強まっていきました。チームの誰かがミスをして「ドンマイ」といつも励ましてくれる人や、チームを引っばつてくれるようなすごいプレーを見せてくれる人がいて、とても楽しかったです。私は体育が嫌いなのに、キンボールをやっている時はすごく自然に楽しめていました。

・最初は「自分がとろう、自分が打とう」と考えるばかりだったけど、少しずつ相手のことを考えたり、仲間の良さも分かってきた。そのお蔭で体育の時間だけでなく日頃の生活の中でも「あの人はあんなこともできるんだ」「あの人は目立たないところであんな努力をしてるんだ」という新しい発見をたくさんするようになった。これもキンボールのお蔭だし、クラスの様子も前より明るくなったような気がする。

Check it out!

新しく、人気のあるリードアップゲームの紹介

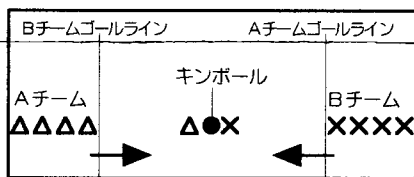
■ジャンケンゲーム

人数：10人以上

場所：体育館・障害物のないオープンスペース

用具：キンボール

目標：ボールを自チームのゴールラインまで運ぶ



【ルール】

- ①各チーム縦1列で20m程度の間隔で並ぶ。
- ②中央にボールを置き、指導者の合図により各チームの先頭者がボールの所まで走りジャンケンをする。ジャンケンに勝ったチームはそのままボールを転がし、負けたチームは次の人がスタートしてボールの所まで走り、ジャンケンをする。
- ③ジャンケンをしながらか先に自チームのゴールラインまでボールを運んだチームが勝利チームとなる。

【注意】

- ・相手が転がしてくるボールに激しくぶつからないように指導する。
- ・別バージョンとして各チーム2人組を作り、ボールを持って運び、ジャンケンをする方法もある。

■ボール・リフティング

人数：1チーム6~10人、2チーム以上

場所：体育館・障害物のないオープンスペース

用具：キンボール

目標：各チーム手をつないでサークルを作り、頭や足など手以外の身体の部位を使ってボールをリフティングする。このゲームの目的はチーム一丸となってボールを追いかけること。



【ルール】

- ①手をつなぎ、サークルの中央にボールを置く。
- ②手を使わないでボールを上上げる。
- ③円の外にボールが出そうになったら、手をつないだままみんなで協力して動く。
- ④みんなで数えながら、最も多くボール・リフティングができたチームが勝利チームとなる。

【注意】

- ・同時に2チーム以上行う時は、チーム間の安全に留意する。
- ・頭や足でボールを受ける場合の注意点を最初に説明する。足の場合は足の甲で、頭の場合は顎を引く、など。

大会結果

■第4回キンボールジャパンオープン

第4回キンボールジャパンオープンが2003年11月23日、24日に東京都で開催され、95チーム、約520名が参加しました。この大会では主催である東京都連盟の意向で50歳以上のプレーヤーの部門であるフレンドリー・シニアの部を設けました。これは開催地の東京では、シニアのプレーヤーが比較的多く、同じレベルのプレーヤーとキンボールを楽しみたいという要望が多かったからです。今後は開催地の普及状況や特徴、要望をフレンドリーの部門に活かしていきたいと考えています。下記は第4回の結果です。



お揃いのユニフォームで優勝の金城大学NSS F(チャンピオンの部・女子)

■フレンドリー・一般の部

優勝 東京スポーツ・レクリエーション専門学校 バナナチーム(東京都・江戸川区)

準優勝 塩尻KSDホークス(長野県・塩尻市)

3位 ニッキーズ(北海道・白老町)

■フレンドリー・シニアの部

優勝 Sprits・SKC(東京都・品川区)

準優勝 Friendly・SKC(東京都・品川区)

3位 チーム!ハイ・ボール(東京都・多摩市)

■ジュニアの部

優勝 南山B(東京都・港区)

準優勝 南足柄キンボールクラブC(神奈川県・南足柄市)

3位 南足柄キンボールクラブB(神奈川県・南足柄市)

■チャンピオンの部・男子

優勝 関西国際大学A(兵庫県・三木市)

準優勝 KUIS FAMILY(兵庫県・三木市)
3位 金城大学NSS H(石川県・松任市)

■チャンピオンの部・女子

優勝 金城大学NSS F(石川県・松任市)

準優勝 関西国際大学D(兵庫県・三木市)

3位 金城大学NSS E(石川県・松任市)

■チャンピオンの部・混合

優勝 さあ!三滋区内会(三重県・玉城町)

準優勝 阿青連(三重県・阿児町)

3位 金城大学NSS A(石川県・松任市)

■2004国際親善大会

本年3月20日(土)、21日(日)にカナダ・ケベック州において2004国際親善大会が開催されました。男子、女子、混合の部門があり、各部門とも初心者クラス、中級者クラス、上級者クラスの3段階のレベルに分かれ実施。日本からは男子、女子、混合いずれも上級者クラスにエントリーし、ケベック州の強豪チームに挑戦しました。結果は健闘空しく、予選敗退。しかし、高レベルの試合はプレーヤーだけでなく、スタッフにとっても非常に勉強になるものでした。



モンリオールでの練習の後で女子チーム同士の記念撮影

選手団は3班に分かれて出発しましたが、第1班は3月15日~22日の滞在で、大会前には国際キンボール連盟の配慮で地元のプレーヤーと練習を通じ指導を受けることができました。19日には地元の小学校でレクリエーションの授業に参加し、子どもたちとキンボールを楽しんだり、22日にはモンリオールのエリートチームの練習に参加させてもらったりと、大会だけでなく練習においてもプレーヤー同士の交流を図ることができました。

新支部紹介

昨年5月発行のニュースレターで紹介した支部は12支部でしたが、2004年の5月現在19支部が設立されています。新支部は北海道(北海道・白老キンボール協会が他地域の愛好者とともに新たに北海道支部を設立)、埼玉県、神奈川県、岡山県、鳥取県、島根県、福岡県、沖縄県で連絡先は下記の通りです。

■北海道キンボール連盟 (敬称略)

担当 吉田 美鈴(道連盟事務局長)

連絡先 TEL.0144-82-6041 FAX.0144-82-2062(吉田勤務先/財団法人白老町体育協会)

■埼玉県キンボール連盟

担当 藤林 殊巳(県連盟理事長)

連絡先 TEL.090-3206-8864 FAX.048-873-5631(藤林宅)

■神奈川県キンボール連盟

担当 一條 美奈子(県連盟理事長)

連絡先 TEL.& FAX.0467-57-4949(一條宅)

■岡山県キンボール連盟

担当 山本 肇(県連盟理事長)

連絡先 TEL.0866-52-3209 FAX.0866-52-2971(山本宅)

■鳥取県キンボール連盟

担当 鈴木 元気(県連盟事務担当)

連絡先 TEL.0857-84-2131 FAX.0857-84-2191(鹿野町中央公民館)

■島根県キンボール連盟

担当 野村 基(県連盟会長)

連絡先 TEL.0855-52-3085 FAX.0855-52-4354(野村宅)

■福岡県キンボール連盟

担当 田村 幸光(県連盟会長)

連絡先 TEL.092-921-4646 FAX.092-921-4896(田村勤務先/太宰府市民図書館)

■沖縄県キンボール連盟

担当 高里 浩(県連盟理事長)

連絡先 TEL.098-853-5775 FAX.098-836-2670(那覇市教育委員会社会教育スポーツ課)

2004年5月22日には岐阜県で設立総会が開かれ、支部が設立される予定です。支部を設立されたい方、設立の方法を知りたい方は本部事務局にご連絡下さい。資料を送付致します。

尚、下記11支部の連絡先については、本部事務局にお問い合わせ下さい。秋田県、山形県、宮城県、東京都、長野県、三重県、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県、鹿児島県。

DATA

- 2004年4月末日現在登録者数 11,673名
リーダー登録者数 2,297名 マスター登録者数 730名
- 2003年4月25日現在までの講習会開催数(自治体主催を含む)
講習会数 768回 延べ参加者数 59,321名



最新ニュースはホームページで。 www.newsports-21.com/kin-ball/

発行 日本キンボール連盟

本部事務局 〒537-0012 大阪市東成区大今里3-12-23 NP0フレンドリー情報センター4F

TEL.06-6971-9190 FAX.06-6981-7470 E-mail: kin-ball@newsports-21.com